

昭和63年

広報

4月15日号

No.518

# あしや

▲市木  
クロマツ



発行 芦屋市役所(公聴広報課) 0797-31-2121  
兵庫県芦屋市精道町7番6号 毎月1日・15日発行

## 市職員の人事異動

部長級をはじめ181人に発令

市は、四月一日、部長級をはじめ百八十一人の人事異動の発令を行いました。総合的なまちづくりの推進に初めて兵庫県から部監を招き、  
【市長部局】▽技監(兵庫県土木部総務課参事)、石岡烈士▽市長室参事、商工振興担当部長(市民長)来田守▽市長室参前田和夫。  
【教育委員会部局】▽管理部長(市長室主幹)広田雄弘▽管理部次長(総務課長)真砂勲▽指導部長(市立芦屋高等学校校長)



40年ぶりの開通となった鳴尾御影線(大林町から春日町を望む)

市では、三月三十一日、打出小槌町で、国道路を除いて東西開通第一号となつた都市計画道路鳴尾御影線の全線開通式を行いました。この道路は昭和二十一年八月に都市計画道路として決定し、翌年、戦災復興土地区画整理事業として着工。四十年ぶりの全線開通となりました。

鳴尾御影線(西宮市鳴尾一神戸市東灘区御影)

市では、三月三十一日、打出小槌町で、国道路を除いて東西開通第一号となつた都市計画道路鳴尾御影線の全線開通式を行いました。この道路は昭和二十一年八月に都市計画道路として決定し、翌年、戦災復興土地区画整理事業として着工。四十年ぶりの全線開通となりました。

## 芦屋市域全線開通

員十五メートルの道路です。

二十二年十月に戦災復興の土地区画整理事業として道路整備に着手し、このたび、四十年五ヶ月の歳月をかけ、総工費約百億円で、全線開通した

関係者約七十人が出席しました。山村市長は、式辞で、「工事のため家屋を移転していただいた二百七十戸のかたをはじめ、関係者、地域のかたがたの長年の協力に深く感謝します」とお祝いの言葉を述べました。



### 三大まつり

父や母は、盆踊りや秋まつりの思い出がある、今でも子供のころ過ごしたふるさとの懐かしい話をしてくれます。私たちにもそんな思い出の残るまちであつて欲しいと思います——今年の正月、テレビ番組で青年男女と芦屋の将来像を対談したときのことです。

かねがね三大まつりを通り初めを行いました。詳しく述べました。植田猛打出小槌町自治会長による高さ十メートルのケヤキの記念植樹やテープカットのあと、車で北、打出小槌町で行い、

ア活動していただきまし

た住居や墓の跡は、柵や

説明板で整備しています。

市教育委員会では、二

月下旬から遺跡の環境整

備にかかり、老朽化して

いた復原倉庫の建て替え

工事を行い、三月末に完

了しました。

復原倉庫(穀物倉)は

茅(かや)葺きで、骨組

みは杉材を使用、四本柱

で一枚梯子(はしご)や

現地の芝生で保護され

されています。

会下山遺跡は、標高二

百尺、大阪湾が一望でき

る高所にあります。

およそ千八百年前の古

代人の生活の跡で、表六

甲山系における弥生文化

期の高地性集落として知

られ、兵庫県史跡に指定

されています。

会下山遺跡の

復原倉庫の建て替え完成

## 復原倉庫の建て替え完成

### 八十塚10号墳の確認発掘結果

昨年秋、岩園町四一番地で、事務所建設の整地工事のため損壊を受けた八十塚号墳について、市教育委員会調査を実施しました。

市教育委員会では、文化庁・県教育委員会の指導を得て、確認を受けた八十塚号墳について、

発掘の結果、十号墳は

東西十丈、南北十三丈の

楕円(だいん)プランの

古墳で、中央に長さ七・

二尺、幅一・五尺の横穴

式石室をつくり、埋葬施

設にしています。壁石は

三分の二が失われていま

した。

内部は、盜掘などで中

世のころから乱され、石

室床面上の遺物は少ない

ですが、墳丘の東すそで

須恵器(すえき)の甕(か

め)一個分がまとまつて

いるように願いを込めて、

親や子供、知人を訪ねて

みようと思つていただけ

りに合わせて芦屋に住む

になるよう、また仕事

などの都合で市外に住ま

われているかたも、まつ

りに運んで芦屋に住む

川の景観と空間は大きな

財産です。最後に一言!

なんといつても、芦屋

の財産を汚してはなら

ないと思う愛市観念がま

すます盛んになりますよ

うに期待しています。

(芦屋市長 山村康六)



## 見えてある記

⑨

「広報あしや」は、あなたのまちの広報委員さんの手でご家庭にお配りしています。



